

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200076		
法人名	医療法人社団 聖山会		
事業所名	グループホーム風早の里		
所在地	千葉県柏市塚崎997-3		
自己評価作成日	令和2年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和2年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、「自然にあふれる笑顔を大切に」を理念とし、入居者と職員が互いに笑顔を引き出せる関係作りに努めている。母体が医療法人であり、24時間体制で訪問看護師による緊急時対応が行える体制を整えている。月2回の内科医の往診、週1回の訪問看護、訪問歯科往診があり、入居者の健康管理に力を入れている。運営推進会議や行事には多数の家族が参加して下さっており、助言や協力の申し出を頂く等、良好な関係が築けている。地域のボランティアの方にも来所して頂き、その方々がさらに他のボランティアの方を紹介して下さる等地域での交流が広がり、入居者の楽しみと活力に繋がっている。

「グループホーム風早の里」は平屋建てとなっており、施設の中心には、ウッドデッキが設置され、各ユニットからの出入りが自由で、気軽に外の空気に触れる事ができる造りとなっている。玄関には理念の他に「笑いの処方箋」という職員心得が掲示しており、職員は入居者と日々の関わりの中で笑いをケアに活かし、明るく楽しい施設作りを目指している。ユニット毎に取り組み内容が異なっており、入居者一人ひとりの希望・身体状況等に配慮しながら外出支援・食事提供等を行い、生活の活性化を図っている。家族との信頼関係構築にも努めており、運営推進会議への入居者家族の出席率も高く、日頃から家族からの協力も得られている。新型コロナウイルス感染対策に伴い、毎月発行の「さくら通信」「すみれ通信」の内容充実を図ると共に、短時間の面会や電話連絡を増やす等、信頼関係構築に努め、家族の安心に繋げている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然にあふれる笑顔を大切にする」を理念とし、入居者と職員お互いがそれぞれの笑顔を引き出せる関係作りを目指している。	「自然にあふれる笑顔を大切にする」と言う施設理念を掲げると共に、理念を施設内に掲示し、入居者・家族・職員・外部の人達への周知を図っている。全職員が日々のケアの中で、理念に基づいたサービス提供の確認や研修等を活用し、意識の統一に努めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、校外学習の小学生児童や、介護を学ぶ実習生の受け入れを行い、世代間交流を図っている。草刈りなどにシルバー人材センターの力を借り、交流の機会としている。	校外学習の小学生児童や実習生受け入れを行う等、世代間交流の機会を設けている。草刈り等の作業をシルバー人材センターの協力を得て行っており、外部の人達との交流機会となっている。しかし、昨年の12月以降は新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、家族に入居者の様子を伝えつつ、認知症の症状の特性を説明し理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を納涼祭やクリスマス会と同日に開催することにより、行事に対する意見や要望を聴く機会としている。 また、家族より音楽ボランティア、レクリエーションボランティアの申し出を頂き活動して頂いている。	地域包括支援センター職員・民生委員・入居者・家族・職員等を構成員として、2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では施設活動の報告や意見・情報交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙げた意見をサービスの質向上に活かしている。会議を施設イベントと同日開催する等、参加者との協力体制の強化や出席率の向上を図っており、参加者から好評を得ている。しかし、新型コロナウイルス感染対策の為、令和2年2月以降の会議は中止になっている。	

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡協議会に参加し、市との意見・情報交換を行っている。高齢者支援課、地域包括支援センターに訪問したり電話により、不明な事項等を相談し早期に解決が図れるよう連携している。	日頃から市に対して、業務全般における報告・相談等を行うと共に、運営推進会議を通じて、意見や情報交換を行う等、サービスの質の向上に向け連携を図っている。また、柏市グループホーム連絡協議会の会議や研修を通じて、市との意見・情報交換を行う等、相互に地域高齢者福祉の課題解決に向け取り組む体制が構築されている。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、会議や研修は中止になっており、文書や電話等で連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が拘束になるのかを常に考えつつ入居者と接している。また、拘束と思われる行為に対し、きちんと指摘しあえる環境作りに努めている。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備すると共に、定期的に身体拘束廃止委員会を開催しており、適切な支援に繋がっている。入居者・家族と同意書を交わしており、施設の方針や取り組み等については、家族から理解が得られている。身体拘束が必要な場合は、説明書と経過報告を整備し、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、事業所内での研修を行うとともに、職員のメンタル面に気を配り虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度を利用している入居者について知ること、制度に関する理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書、重要事項の説明を行い不明点が無いか確認している。改定の際は運営推進会議や文書にて説明し理解を得られるよう図っている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口、意見箱を設置するとともに、家族来訪時や運営推進会議の際に家族の要望、意見を確認。上がってきた意見、要望は、申し送りや会議を通してスタッフに通知、検討し迅速な対応を行っている。	家族の面会時・電話連絡・運営推進会議等を活用して家族の意見・要望を確認している。挙げた意見・要望等においては、会議での検討や全職員への周知徹底を図る等、サービスの質の確保・向上に繋げている。毎月、「さくら通信」「すみれ通信」を発行し、写真等で入居者の生活状況等を伝えており、信頼関係構築に努め、家族の安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議、各委員会で意見を聴く機会を設けている。また、提案のためのノートを用意し、意見を述べやすい環境を整えている。	定期的にユニット会議・全体会議・各委員会等を開催し、全職員から意見・提案等を確認する機会を設けている。挙げた意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、ケアに反映させている。研修への参加啓発及び研修費用の支援を行い、研修参加の機会を確保する等、就業環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定・処遇改善交付金を活用し賃金改善を図っている。キャリアパス要件の基準を明確にし昇給に繋げる体制を整えている。研修参加を促進し、資格取得の補助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を促進し、そこで得た知識を職員に伝達することで、職場全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じ、ネットワーク作りや意見交換を行っている。他施設を訪問することにより新たな視点を持ち、自施設の運営に反映させるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な気持ちに寄り添い、思いを伝えられるような雰囲気作りを心掛けている。アセスメントにより生活歴、好み等を把握し、本人への理解を深め信頼関係を作れるよう努めている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、真の要望や困っていることを確認。何でも相談できる環境、雰囲気作りや、いつでも連絡が取り合える体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の言葉や、ご本人の身体状況からニーズを導き出し、支援の内容を見極める。必要に応じて他のサービス利用を提案して行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の家族だったらどういう対応をするだろうと想像しつつ、お互いが心地よく生活できるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にし、家族の思いをくみ取れるよう努めている。また、写真を掲載した家族への手紙(さくら通信、すみれ絵手紙)を毎月送付し、入居者の日常の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしていく趣味や習慣は、なるべく継続出来るよう環境を整えている。	家族との外出・外泊は自由となっており、家族関係継続を支援している。また、入居者一人ひとりの希望に応じた少人数・個別での外出も実施している。しかし、新型コロナウイルス感染対策の為、今年度は、家族との外出や外泊は実施しておらず、短時間の面会や電話連絡で相互の関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、円滑な関係作りができるような席の配置を行っている。また、レクリエーションを通じ、入居者同士が楽しく関わり合えるよう工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ相談や関係機関の紹介等を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を傾聴し、希望や意向を把握するよう努めている。意思の伝達が難しい場合は、本人にとってより良い方向性を考え対応している。	入所時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行うと共に、必要に応じて、医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、情報の把握に努めている。入居後は、生活の様子や会話等から意向をくみ取ると共に、家族との話し合いや定期的に職員間で検討を行い、その人らしい生活に向けた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からできる限り多くの情報を頂き、本人の好み、こだわりを把握するよう努めている。特に、生まれ育った場所での思い出や、そこへの思いはしっかり聞き取り、スタッフとの関係作りに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を十分行い、出来ていることと、難しいことを見極め支援している。食事、排泄等、日々の記録により心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の意向を踏まえ、記録を活用し管理者、居室担当者が介護計画の原案を作成。ユニット会議において原案を検討、意見をまとめ介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認評価を行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人・家族の意向や記録を基に介護計画の原案を作成し、全職員にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、家族の要望や状況の変化に応じて介護計画の見直しを実施している。また、医師や訪問看護師の意見も取入れる等、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、日誌、健康管理表の記入、毎日の申し送りを通し情報の共有を行っている。また、訪問の医療職の意見も加味し日々の支援の実践、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応が求められる場合は、職員間で役割分担しながら調整し、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校外学習の小学生、ボランティアの方々やデイサービス利用者との交流を通じ、良い刺激を受けつつ楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診の際には、施設に月2回往診している内科医からも情報提供があり、家族の安心に繋げられるようにしている。その他、歯科往診、訪問看護、訪問マッサージ等により、支援体制を整えている。	協力病院や希望のかかりつけ医へ受診が可能となっている。また、定期的に協力病院の内科医や訪問歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われていると共に、緊急時・急変時には24時間体制で協力が得られるよう連携を図っている。訪問看護ステーションと契約しており、看護師による健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行っており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時には、日々の状態を報告、相談し助言を受けている。また、状態に変化がある時は医師に相談し、24時間体制で看護師による処置を受けられるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に介護サマリーや、主治医の診療情報提供書、薬表等の情報提供を行っている。入院中は面会や家族から状況を聴くなどして状況把握に努めている。病院と連携を取りつつ、退院後順調に元の生活に戻れ得るよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期における本人、家族の意向をしっかり確認した上で、医師、看護師と相談しながら看取りの支援が行えるように体制を整えている。課題は、早い時期から重度化についての話し合いを始め、本人、家族、職員共に心の準備をして行くことと考えている。	重度化・終末期においては指針を明文化し、入居者・家族への説明を行い、同意も得ている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を踏まえ、支援方法の検討・ケアの統一を図る等、できる限りの支援を行っている。日頃から医療面においては協力病院の医師や訪問看護の看護師等と連携を図る等、状況の変化やニーズに応じた適切な支援に向け体制を整えている。	

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験ある介護職員から他の職員に対し、日常業務の中で助言を行っている。今後、救命救急講習を順次受けていく体制を整えていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの避難訓練を年2回実施。防災委員を中心に、火災、地震に備えた対応を確認、非常時に備えている。	緊急時・災害時マニュアルを整備すると共に、避難経路図の作成・掲示・複数の避難経路も確保している。また、消火器・自動火災報知機等の機器を設置し、災害時・緊急時に備えている。年2回、自主訓練を実施しており、消火器訓練・通報訓練等を通して、状況に応じた避難や対応の方法を確認している。コロナ禍により、消防署立会の消防避難訓練は控えており、年明けの自主訓練は想定訓練を予定している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が理解しやすい言葉を用い、自己決定出来るよう配慮している。入居者の尊厳を損なわないような接遇を心掛け、不適切な対応が見られた場合は職員間で指摘し合える環境を整えて行く。	会議・研修等でプライバシー保護や接遇についての指導を行っている。日頃から理念を意識し、職員間で入居者一人ひとりに合わせた言葉掛けや介助方法の確認を行いながら、日々の業務に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に入居者の声を聴く姿勢を持ち、本人が思いを伝えやすい環境を作るよう心掛けている。言葉では表現できない方の思いをくみ取り意向に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて、ご本人のペースで過ごして頂けるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに合わせ、一緒に服選びをしている。美容師の訪問で、1~2か月に1回ヘアカットを行っている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事のほか行事食として、季節を感じる献立やおやつを楽しんで頂いている。また、ドライブを兼ねた外食で気分転換が図れる機会を設けている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・配膳・後片付けを職員と協働で行っている。献立作成と食材の配送を業者に委託し、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、定期的に外食やお弁当のテイクアウトを行っており、食に対する楽しさを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ咀嚼、嚥下力に応じて、刻み食やソフト食等を提供している。水分を摂るのが苦手な方には、小さい容器で少量ずつ飲んでいただいたり、好みのものに変えてお出しする等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きはご本人が出来るところまではご自分でして頂き、必要に応じ仕上げ磨きをしている。週1回の訪問歯科で口腔内をチェックし、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握。適切な声掛けやトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックリストを活用しながら一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、適切な声かけ・トイレ誘導を行い、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。夜間は、入居者の能力や状況に配慮しながらトイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、食事の工夫・日常の運動・医師や看護師との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供し、継続的に腸内環境を整えられるようにしている。食事、おやつ前には、ラジオ体操、梅干し体操等を行い習慣的に体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、入居者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は無理をせず、時間をおいて声掛けをしたり、職員を交代する等の対応をしている。	入浴は希望や体調に応じて回数・時間等、柔軟に対応している。また、必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を観察し、疲れている様子があれば臥床を勧め休息して頂いている。夜の睡眠習慣は個人差があるので、日中の活動に影響が出ない範囲で自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、同行訪問の薬剤師に、薬についての相談、助言を受けておりそれを職員に伝えている。服薬の変更があった場合はトピックスノートに記載し周知を図っている。また、誤薬を防ぐため、服薬介助時は複数人で薬袋の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦として家事をこなして来られた方が多いので、洗濯物をハンガーにかけ作業や洗濯物をたたむ作業などを無理のない範囲でお願いしている。また、編み物など趣味に関するものを持参して楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、散歩や、ウッドデッキでのお茶会、レクリエーションで気分転換をして頂いている。桜やバラの花見、紅葉狩り等、季節を感じられる外出を行っている。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。定期的に外出行事を計画・実施しており、室内・戸外での楽しみを支援している。また、地域行事・催し物・集会等にも積極的に参加しており、地域住民の協力や交流を広げ、施設・入居者の理解促進や生活活性化に繋げている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、散歩とドライブは実施しているものの、買い物や行事参加等の外出活動は中止している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手元に持っていたいと希望する入居者には、紛失する可能性があることを家族に理解してもらった上で、一定額を所持して頂いている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば相手の都合を確認し、電話をかけるお手伝いをしている。手紙はご本人が読みやすいように拡大コピーをしたり代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にも手伝って頂き、季節ごとにしつらえを変え四季の変化を感じられるように工夫をしている。快適に過ごして頂けるよう入居者の様子を見ながら温度調節を行い、冬は床暖房も併用している。	施設内はバリアフリーとなっており、十分な介助スペースを設けており、入居者の安全確保がなされている。また、清掃・除菌を徹底しており、清潔で快適に過ごせるよう支援している。共有スペースにはソファやテーブルが設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。また、両ユニットの間にウッドデッキが設置されており、気軽に外の空気に触れることが出来る住居環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファ、玄関にベンチを設置し、他の入居者とともに過ごしたり、一人の時間を確保できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族と相談し、馴染みのものや好みのものを持ち込んでいただき、ご本人が落ち着いて暮らせるようなしつらえにしている。	入居者・家族の要望により馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活出来るよう配慮されている。入居者一人ひとりの身体状況・生活歴・個性に配慮し、居室の表札・飾り付けに工夫を凝らす等、その人らしく過ごせる居室環境作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に移動できるよう、極力不要な物は置かず動線を確保している。トイレ、風呂場の表示、居室の名札等を用いてそれぞれの場所が分かりやすいようにしている。		